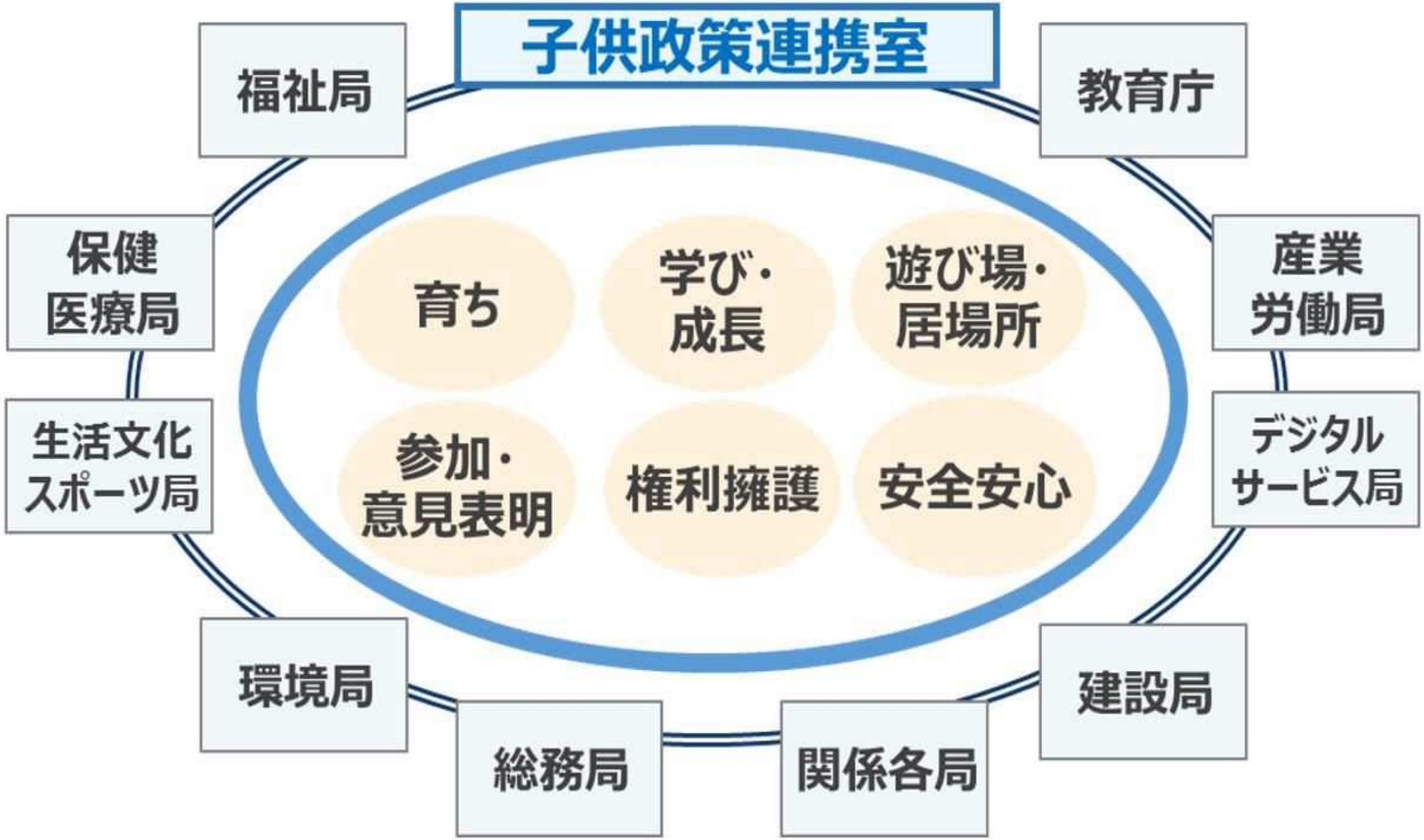
子供政策連携室　組織イメージ



こども未来アクション2024（本編）_ページ６２抜粋

こども未来アクション

— 2024 —

東京都

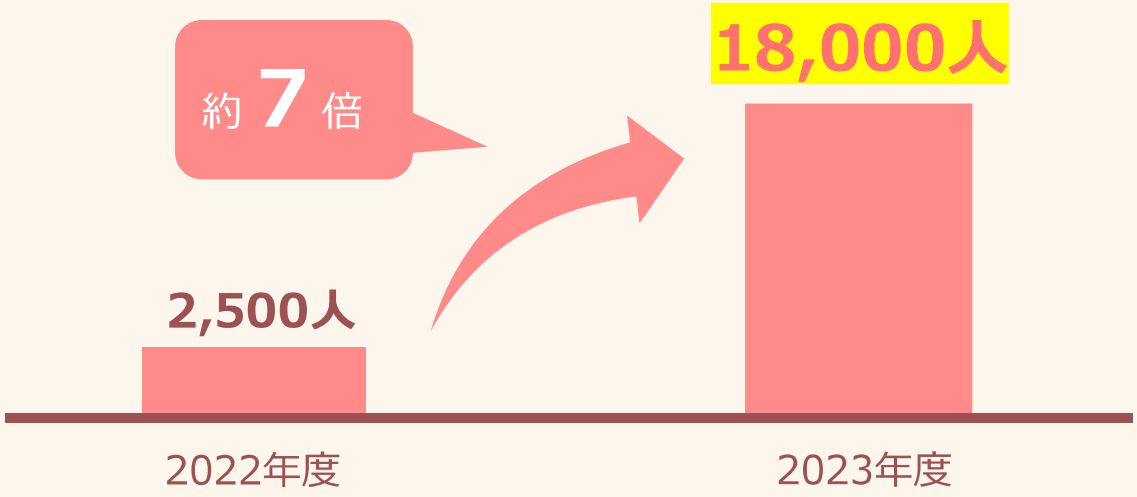
令和6(2024)年2月

子供の実態、声や思いを子供政策に反映

「子供の最善の利益」という観点から、子供政策をバージョンアップ

子供の意見を幅広くヒアリング

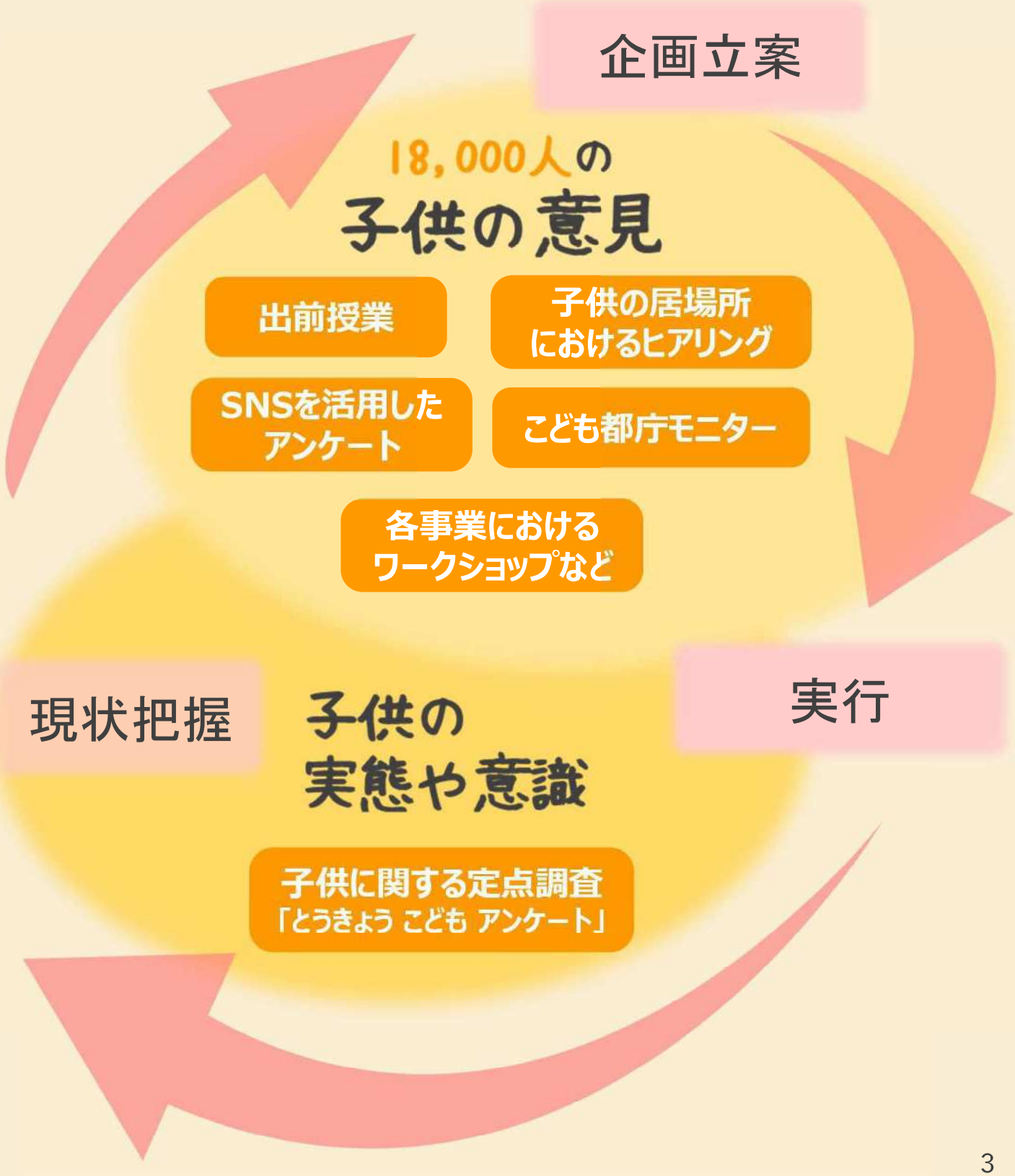
数多くの子供の生の声を聴きました



政策強化の方向

○ 現状把握・企画立案・実行など、それぞれの段階で子供の意見やエビデンス（実態や意識）を捉え、子供政策を状況に応じて柔軟にバージョンアップ

子供の意見やエビデンスを反映した子供政策の推進



子供の実態、声や思いを子供政策に反映

子供の意見を聴いて施策に反映する取組

- **幅広い年代の多くの子供**から意見を聴くとともに、**子供が思っている率直な意見**を引き出し、**様々な環境下にある子供の声**もしっかり聴き取ることができるよう、**質と量の両面**から**子供との対話を強化**しました。
- 具体的には、2023年４月から12月にかけて、子供の居場所におけるヒアリングやこども都庁モニターなど、**多様な手法**を用いるとともに、**子供との対話の実施規模**についても**昨年度より大幅に増やしました。**

子供の居場所におけるヒアリング

子供が日常を過ごす居場所に足を運んで、600人の子供からヒアリング

こども都庁モニター

年代別に公募した1,200人のモニターに、各局の施策に関するWebアンケートを実施

出前授業

都職員が小・中・高校に出向き、子供政策に関する様々なテーマで1,600人に授業を実施

SNSを活用したアンケート

中高生等延べ15,000人にSNSを活用してアンケートを実施

各事業におけるワークショップ等

庁内各局の多様な施策において、子供の参加や対話の機会を創出

子供に関するエビデンス（実態や意識）を把握する取組

- 2023年５月から６月にかけ、**子供の幸福感や自己肯定感、居場所などについて調査**しました。
- 東京の子供の特徴を知るため、**国際的な調査等との比較も実施**しています。

子供に関する定点調査
「とうきょう こども アンケート」

幅広い年代の子供とその保護者7,500世帯を対象に郵送で調査を実施

こども未来アクション2024（本編）_8ページ

子供の声や思いを今後のアクションへつなげていきます

悩みの相談に関する声

＜実際の発言に基づいて記載＞

相談窓口に電話しても**誰が出るのか分からない。**話せるようになるまで心の距離がある（中学生）

学校で不安なこと、担任にも**相談できない気がする。**おおごとにしたくない（小学生）

気楽にインターネットで相談できたらいい（小学生）

家族に悩みを相談しづらい。週に１度だけ来る**スクールカウンセラーには何でも話せる**し、相談できる。**毎日来てほしい**（中学生）

共感してくれるだけでもいい。気持ちを上げてくれる人がいると**確実に悩みは減る**（高校生）

相談する時に電話やメールをするのが恥ずかしいので、**スクールカウンセラーをもっと身近なものにしてほしい**（小学生）

相談する**相手を事前に知れて、選べる**ようにすると利用しやすくなる（高校生）

電話は苦手だけど、**LINEで気軽に相談できるならいい**かもしれない（中学生）

相談窓口を案内するときは、もっと分かりやすく知りたいことが書いてあるといい。**ホームページなどにQ&A**みたいのがあったらいい（小学生）

誰にも言えないことを誰かに聞いてもらえると気持ちが楽になるから、**相談できる場所がほしい**（小学生）

電話１本で心を開けと言われても**難しい**（高校生）

直接担任に言っても上手くいかない。**スクールカウンセラーから伝えてもらうことで物事が動く**（高校生）

今後のアクション

- **SNSなどから相談相手を選ぶことができ**、選んだ相手が**継続的に不安や悩みに寄り添ってくれる**取組を進めていきます。
- **小学校・中学校・都立高校**の**スクールカウンセラーの配置を充実**させます。
- 子供の悩みや問題の解決に向けて動く**スクールソーシャルワーカーの活用**を進めていきます。
- **「東京都こどもホームページ」**では、**悩みの内容**や**相談方法**ごとに**相談窓口を探す機能**により、分かりやすく案内します。

組織横断の推進チームによるリーディングプロジェクト

既存の枠組みでは対応が難しいテーマごとに、**子供政策連携室が核**となり、**政策分野の垣根を越えて関係局からなる推進チームを組成**し、**リーディングプロジェクトとして組織横断的に**取り組んでいく。

乳幼児期の子育ち

全ての乳幼児の学びや
経験をもっと豊かに

**子育ての
つながり創出**

「つながり」つむぐ
みんなの笑顔

学齢期の子育ち

自分らしく
ありのままで

<子供に対する取組>

子育て　居場所　遊　び

組織横断の推進チームによるリーディングプロジェクト

既存の枠組みでは対応が困難な課題に対して組織横断的に取り組む
子供を「主体」として捉えたリーディングプロジェクト

学び・成長　安全安心

**子供の笑顔につながる
「遊び」の推進**

子供の「遊びたい」を
全力で応援

ユースヘルスケア

からだや体調のこと、
もう一人で悩まない

**子供を事故から守る
環境づくり**

子供が事故から守られ
思い切りチャレンジできる

**日本語を母語と
しない子供を支援**

みんなでともに学び、
多くの人とつながる

**ヤングケアラーを
支える**

誰もが自分らしく暮らせる

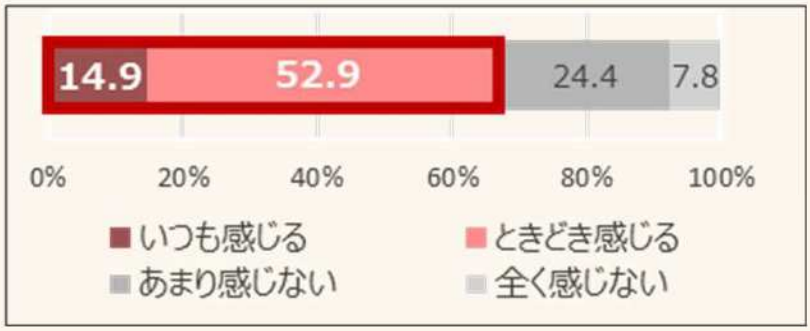
アウトリーチ

子育てのつながり創出

“つながり”で子育ての孤独や孤立を予防・解消

子育てに不安や悩みを抱える家庭は約７割

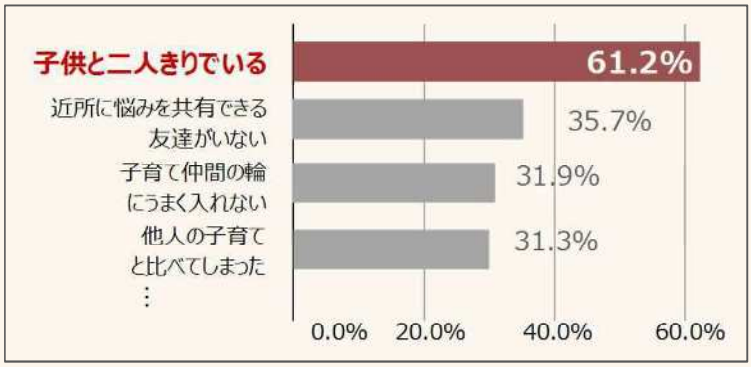
＜子育ての不安や悩みについて＞



（出典）文部科学省「令和3年度家庭教育の総合的推進に関する調査研究」

背景には子育て家庭の孤独、孤立

＜どんなときに「孤立や孤独」を感じるか＞



（資料）地域コミュニティ「ピアッザ」調べ「子育て中の孤立や孤独に関する調査」（2020年10月実施）を基に作成

政策強化の方向

- 子育て家庭へのきめ細かな**見守り**を実現

デジタル版

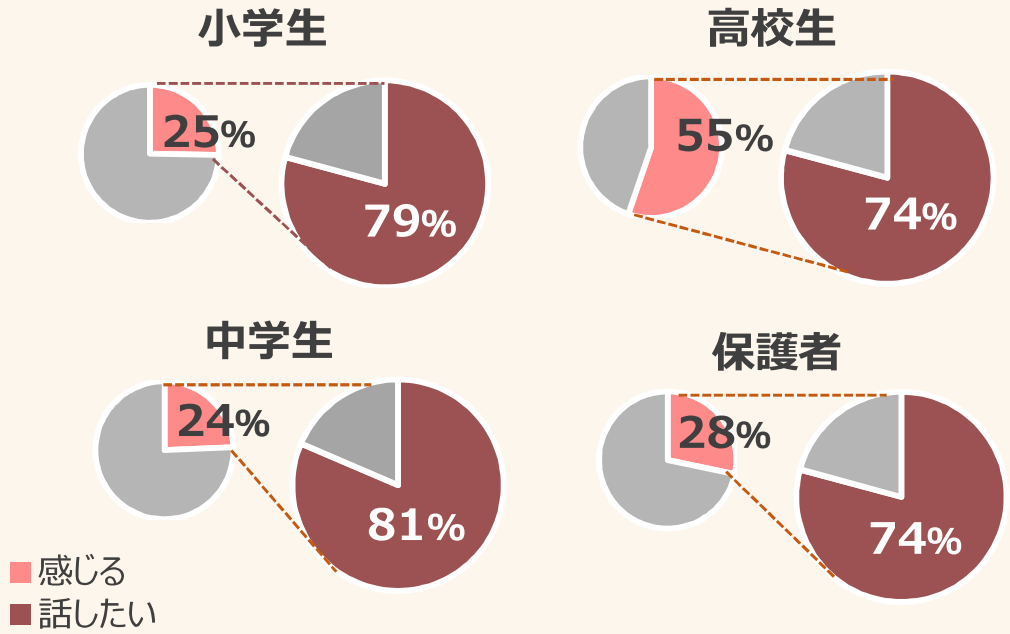
子育てのつながり創出

子供や子育て家庭の不安や悩みの深刻化を予防

子育て家庭だけでなく、子供本人も、
孤独や孤立を感じ、他者とのつながりを求めている

＜孤独や孤立を感じるか、孤独感を感じるときに誰かと話がしたいか＞

孤独や孤立を「**感じる**」と答えた人のうち、「**誰かと話がしたい**」人の割合



※東京都子供政策連携室によるアンケート調査を基に作成
（調査対象　都内在住の子供（小、中、高）と保護者（未就学、小、中、高）の約3,200人）

政策強化の方向

- **SNS等を活用したチャット相談により孤独・孤立を予防**

デジタルによる“つながり”

3 SNS等を活用したチャット相談により孤独・孤立を予防

子供や子育て家庭が気軽に相談できるプラットフォームづくりを推進（子供・子育てメンター“ギュッとチャット”／子供政策連携室）

- SNS等を通じて、**利用者が選択可能**な**多様な相談相手***が、**継続的**に子供・子育て家庭に**傾聴・共感**し、孤独・孤立による**不安や悩みの深刻化を予防**

  *多様な相談相手のイメージ：心理士、保健師等の専門職
  大学生、相談対応経験の豊富な人　等

- **AI等の技術**を併用し、**利用者の異変検知等のリスク管理**を実施するなど、安心して利用でき、**心の拠り所となる居場所づくり**を推進

東京都の多様な分野における相談事業との連携イメージ

東京都の各局の相談機能との連携により、子供や子育て家庭に寄り添う相談ネットワークを構築

妊娠期 → 出産 → 乳幼児期 → 学齢期以降

東京都の幅広いSNS等相談支援：親子のための相談LINE／はあと／SNS等教育相談／こたエール／・・・

連携

子供・子育てメンター“ギュッとチャット”

多様な相談相手

AI ・AIパトロールによるリスク管理 ・AIとチャット ・相談内容解析

子育て家庭に寄り添い、学齢期以降の子供を切れ目なくサポート

プッシュ配信により必要な支援情報を提供

SNS等で日常的な不安や悩みをチャット相談

不安感　孤独感　もやもや感

～ 子育て家庭や子供たちの孤独・孤立による不安や悩みの深刻化を予防～

これまでの取組の成果 ＆ 子供の意見反映等の取組

産官学民が利活用できる「子供の事故情報データベース」を構築中です。
現在、データベースの在り方について、多分野から意見をいただきながら、要件定義をとりまとめています！

専門家の意見

傷害予防、情報処理、データサイエンス、法律、医療などの専門家で構成するワーキング・グループを開催し、多角的な意見をいただきました

東京工業大学 工学院 教授 西田 佳史

産業総合技術研究所首席研究員 本村 陽一

国立情報学研究所 教授 相澤 彰子

弁護士 澤田 将史

東京都立小児総合医療センター 医師 岸部 峻

産業総合技術研究所 主任研究員 北村 光司

- **一元的に事故情報を収集して蓄積するシステムが必要**
- **ユーザごとのニーズを整理するべき**
- 事業者や教育現場の意見も聴くと良い
- 柔軟に開発できるよう、徐々に**ビルドアップ**したほうが良い

事業者の意見

子供の安全な製品や、食品・飲料の製品開発等に取り組む事業者にヒアリングしました

菓子業界
損保団体
飲料メーカー
食品メーカー
玩具業界　など

- **子供の事故データを参照したい**
- **データベースがあれば、有用な情報に気づくことができる**
- **社内の研修材料を作成する際、参考にしたい**

様々データを収集

分かりやすく表示・発信

ビルドアップ

スモールスタート

研究者や事業者の成果を入れる

様々な意見を参考にデータベースを構築中!

子供たちの意見

ワークショップや出前授業を通じて子供たちと対話しました

色々な事故情報が**検索できるといい**と思う！

一般社団法人東京学芸大 EXPLAYGROUND推進機構の中学生

情報を**知ることは大切**だと思う

クラーク記念国際高等学校の高校生

自分の年齢に合った事故情報を知りたい

葛飾区立花の木小学校の小学生

子供を事故から守る環境づくり（事故情報データベース構築事業）プロジェクト

産官学民が幅広く利活用できる子供の事故情報データベースを構築

- 製品事故や学校などでの事故、日常生活における事故など、点在している**幅広い子供の事故情報データを集約・発信**します
- 大学や研究機関等における様々な**研究実務**や、事業者における**製品開発・改良等に活用**していただけるよう、情報を整理します
- 大学や研究機関による**研究成果**や、データベースを活用して得られた**新たな知見等**の情報も取り入れる予定です

➢ 子供の事故予防策の検討のために必要な情報をデータベース化することにより、子供の事故が起きにくい環境づくりを推進

傷害予防、データサイエンス、法律等の専門家で構成する**有識者ワーキンググループ**の開催をはじめ、**データ保有機関等**との意見交換、**事業者へのヒアリング**などを通じて、幅広い意見を伺いながら、データベースの構築を進めています

項目／目標（2025）	2023年度（現在地）	2024年度	2025年度
産官学民が利活用しやすいデータベースの公開	要件定義/連携機関との調整	データベースのビルドアップ（情報の拡充）	データベースのビルドアップ・本格稼働（機能の拡充）